

予算の執行とその概要

平成23年度の国における予算編成は、政権交代後初めての本格的なもので、その内容は「新成長戦略」を着実に推進することで、「強い経済」、「強い財政」、「強い社会保障」を実現するというものでした。

しかしながら、東日本大震災の影響から我が国の経済活動は深刻な打撃を受け、厳しい状況からのスタートとなり、官民の総力を結集した復旧・復興努力を続け景気は持ち直しに転じたものの、急速な円高の進行や欧州政府債務危機の顕在化から世界経済は減速し、大震災の影響による電力供給の制約や原子力災害の影響、さらにはデフレの影響、雇用情勢の悪化懸念が依然として残るなど厳しい状況が続いています。

こうした状況にあって、本市においては、国の「地域活性化交付金事業（きめ細かな交付金・住民に光を注ぐ交付金）」に係る繰越事業や「緊急雇用創出事業臨時特例交付金」などの各種交付金、「過疎対策事業（ソフト事業）」の活用を図りながら、地域経済の活性化や雇用対策、市民生活の安定化、将来のまちづくりにおいて成長力を高める施策など継続性、独自性、発展性の観点から必要とされる事業を骨格予算及び肉付予算で計上いたしました。

予算の執行にあたりましては、「第5次芦別市総合計画・実施計画の目標と施策の達成」と「芦別市財政健全化計画の推進」により、まちづくりや行政サービスの提供が安定的に続けられるよう各種取組を進めてきましたが、特に地域経済の活性化と雇用の確保、生活環境の向上、地域の振興に資する社会資本整備事業（公営住宅建設、道路・河岸整備、森林環境保全整備、学校施設整備）及び福祉・医療・教育の充実に鋭意努めてまいりました。

これらの結果を踏まえた各会計の決算の状況は、次のとおりとなっています。

一 般 会 計

1 予算規模及び収支状況（表1参照）

平成23年度の予算額は、当初予算において103億8,900万円を計上するとともに、年度途中で7回にわたり6億11万9千円の追加補正を行った結果、109億8,911万9千円となり、これに、平成22年度繰越明許費1億3,397万円を加えた予算総額は111億2,308万9千円となり、前年度の予算総額と比較すると5億3,747万4千円（4.6%）の減少となりました。

予算執行の結果は、歳入決算額111億2,629万9千円、歳出決算額109億4,002万6千円となり、歳入歳出差引き1億8,627万3千円の剰余金が生じたので、全額を翌年度へ繰り越しました。

なお、平成23年度の単年度収支は、この額から平成23年度の繰越明許費412万5千円と前年度の実質収支1億6,615万3千円を差し引いた1,599万5千円の黒字となりました。

表1 歳入歳出決算額の対前年度比較

(単位：円・%)

区分	平成23年度 (A)	平成22年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	増減率
歳入決算額 (ア)	11,126,298,547	11,543,200,860	△ 416,902,313	△ 3.6
歳出決算額 (イ)	10,940,025,520	11,327,507,608	△ 387,482,088	△ 3.4
差引き (ア)-(イ) (ウ)	186,273,027	215,693,252	△ 29,420,225	△ 13.6
翌年度へ繰り 越すべき財源 (エ)	4,125,000	49,540,000	△ 45,415,000	△ 91.7
実質収支 (ウ)-(エ) (オ)	182,148,027	166,153,252	15,994,775	9.6
単年度収支 (オ)の(A)-(B)	15,994,775	△ 69,095,420	85,090,195	123.1

2 歳入の状況（5ページ表2及び7ページ表3参照）

平成23年度の歳入決算額は、111億2,629万9千円となり、前年度と比較すると4億1,690万2千円（3.6%）の減少となりました。

歳入決算額の主な増減を款別にみますと、

市税については、9,273万8千円（5.5%）の増加となりましたが、これは、法人税、固定資産税、入湯税が減少となったものの、市民税、軽自動車税、市たばこ税、鉱産税、都市計画税が増加したことによるものであります。

地方譲与税については、370万円（2.6%）の減少となりましたが、これは、地方揮発油譲与税330万2千円（8.0%）、自動車重量譲与税39万8千円（0.4%）が減少したことによるものであります。

利子割交付金については、105万7千円（22.3%）の減少となりました。

地方消費税交付金については、998万7千円（5.8%）の減少となりました。

地方特例交付金については、329万4千円（10.3%）の減少となりましたが、これは、減収補てん特例特例交付金138万5千円（17.2%）が増加となったものの、児童手当及び子ども手当特例交付金467万9千円（19.6%）が減少したことによるものであります。

地方交付税については、1億5,295万9千円（2.9%）の減少となりました。これは、普通交付税1億2,272万1千円（2.7%）、特別交付税3,023万8千円（4.0%）がそれぞれ減少したことによるものであります。

国庫支出金につきましては、1億3,832万7千円（10.4%）の減少となりましたが、これは、障害者福祉負担金、公立学校施設整備費交付金、きめ細かな交付金、住民生活に光をそそぐ交付金、経営体育成支援事業費補助金等が増加となったものの、生活保護費負担金、西芦別デジタルテレビジョン中継局建設事業費補助金、地域活性化・きめ細かな臨時交付金、公営住宅整備事業費交付金等が減少したことによるものであります。

道支出金については、7,721万6千円（11.3%）の減少となりましたが、これは、障害者福祉費負担金、子宮頸がん等ワクチン臨時交付金、北海道知事・北海道議会議員選挙委託金が増加となったものの、生活保護費負担金、緊急雇用創出事業費補助金、経営体育成交付金、国勢調査委託金、参議院議員選挙委託金、緑の分権改革推進事業委託金等が減少したことによるものであります。

繰入金については、2,098万2千円（24.7%）の減少となりましたが、これは、芦別市桜ヶ丘霊園基金繰入金、芦別市生涯学習・スポーツ振興基金繰入金等が増加したものの、減債基金繰入金、芦別市救急車両購入基金繰入金等が減少したことによるものであります。

市債については、2億3,576万4千円（27.3%）の減少となりましたが、これは、河川整備事業債、消防施設整備事業債、小学校耐震補強事業債等が増加となったものの、情報通信基盤整備事業債、公営住宅整備事業債、臨時財政対策債、災害復旧事業債等が減少したことによるものであります。

その他の収入については、1億3,364万6千円（11.1%）の増加となりましたが、これは、繰越金4,276万2千円（16.5%）等が減少したものの、分担金及び負担金57万3千円（1.2%）、財産収入2,481万9千円（83.9%）、寄附金1,271万3千円（269.0%）諸収入1億4,275万9千円（37.5%）等が増加したことによるものであります。

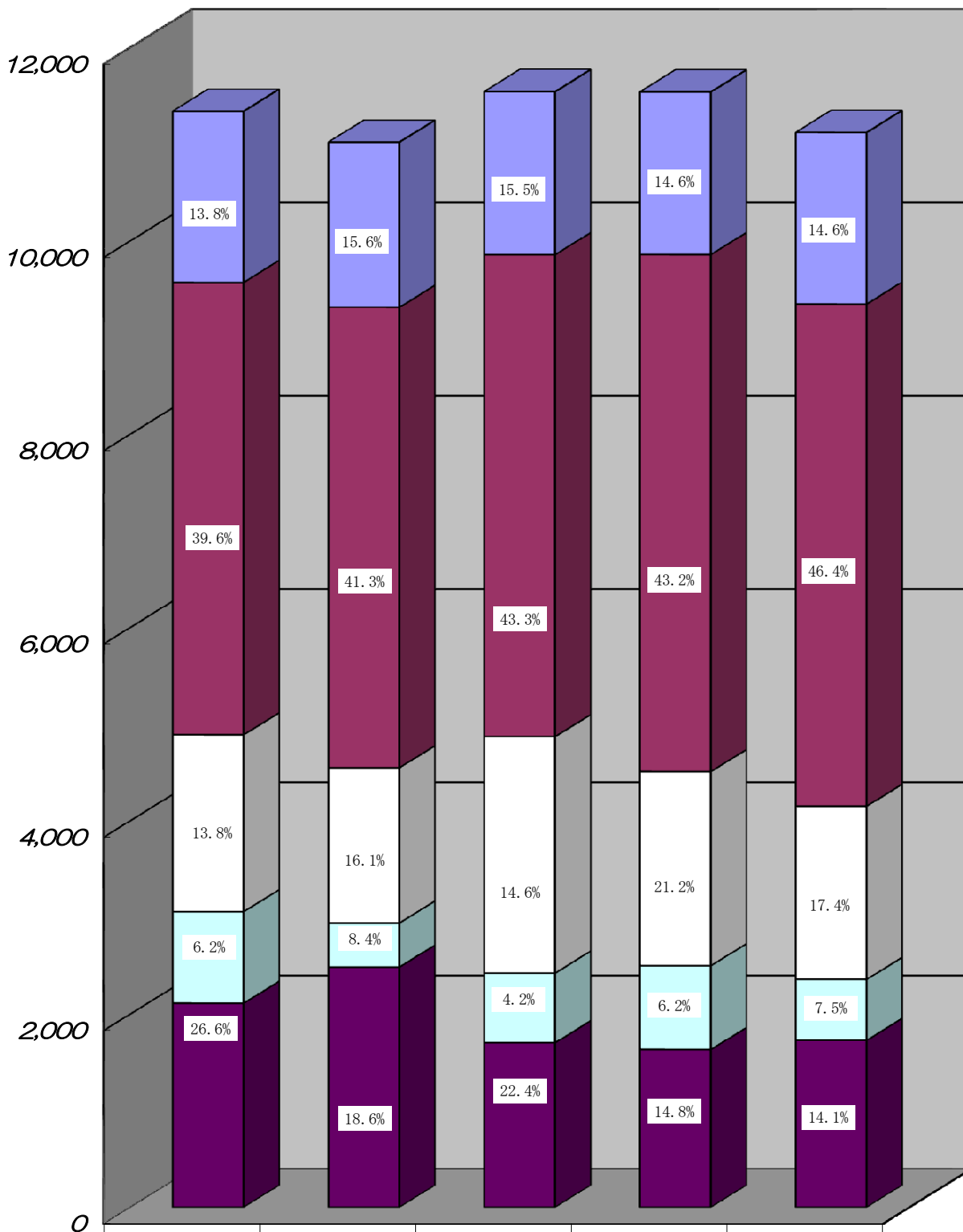
表2 主な歳入決算額の対前年度比較

(単位：千円・%)

区 分	平成23年度		平成22年度		比較増減 (A) - (B)	増減率
	(A)	構成比	(B)	構成比		
市 税	1,775,828	16.0	1,683,090	14.6	92,738	5.5
地方譲与税	136,780	1.2	140,480	1.2	△ 3,700	△ 2.6
利子割交付金	3,681	0.0	4,738	0.0	△ 1,057	△ 22.3
地方消費税交付金	162,895	1.5	172,882	1.5	△ 9,987	△ 5.8
地方特例交付金	28,671	0.3	31,965	0.3	△ 3,294	△ 10.3
地方交付税	5,200,403	46.7	5,353,362	46.4	△ 152,959	△ 2.9
国庫支出金	1,187,795	10.7	1,326,122	11.5	△ 138,327	△ 10.4
道支出金	605,508	5.4	682,724	5.9	△ 77,216	△ 11.3
繰入金	63,876	0.6	84,858	0.7	△ 20,982	△ 24.7
市 債	627,953	5.6	863,717	7.5	△ 235,764	△ 27.3
その他の収入	1,332,909	12.0	1,199,263	10.4	133,646	11.1
合 計	11,126,299	100.0	11,543,201	100.0	△ 416,902	△ 3.6

歳入決算内訳5ヶ年の推移

(単位：百万円)



	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
■市税	1,771	1,709	1,687	1,683	1,776
■地方交付税	4,681	4,770	4,986	5,353	5,200
□国道支出金	1,831	1,602	2,451	2,009	1,793
□市債	950	460	718	864	628
■その他収入	2,111	2,484	1,704	1,634	1,729

次に、歳入を依存財源と自主財源別で見ますと、

依存財源は、82億3,864万7千円（構成比74.0%）で前年度と比較すると4億8,851万6千円（5.6%）の減少となりましたが、これは、配当割交付金、諸収入等が増加となったものの、地方譲与税、地方消費税交付金、自動車取得税交付金、地方交付税、国庫支出金、道支出金、市債等が減少したことによるものであります。

自主財源は、28億8,765万2千円（構成比26.0%）で前年度と比較すると7,161万4千円（2.5%）の増加となりましたが、これは、繰入金、繰越金等が減少となったものの、市税、分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、寄附金等が増加したことによるものであります。

表3 依存財源と自主財源別の対前年度比較

（単位：千円・%）

区 分	平成23年度 (A)		平成22年度 (B)		比較増減 (A) - (B)	増減率
		構成比		構成比		
依 存 財 源	8,238,647	74.0	8,727,163	75.6	△ 488,516	△ 5.6
うち地方交付税	5,200,403	46.7	5,353,362	46.4	△ 152,959	△ 2.9
自 主 財 源	2,887,652	26.0	2,816,038	24.4	71,614	2.5
うち市 税	1,775,828	16.0	1,683,090	14.6	92,738	5.5
うち諸収入	267,338	2.4	263,625	2.3	3,713	1.4
合 計	11,126,299	100.0	11,543,201	100.0	△ 416,902	△ 3.6

3 歳出の状況（9ページ表4参照）

平成23年度の歳出決算額は、109億4,002万6千円となり、前年度と比較すると3億8,748万2千円（3.4%）の減少となりました。

この歳出決算額の主なものをみますと、義務的経費については、全体で3,223万7千円（0.6%）の減少となりましたが、これは、人件費4,885万2千円（2.1%）が増加となったものの、扶助費4,282万7千円（2.8%）、公債費3,826万2千円（2.7%）が減少したことによるものであります。

投資的経費については、6,907万2千円（7.0%）の増加となりましたが、これは、災害復旧事業費1,423万7千円（皆減）が減少となったものの、普通建設事業費8,330万9千円（8.6%）が増加したことによるものであります。

その他の経費については、4億2,431万7千円（8.3%）の減少となりましたが、これは、物件費4,681万8千円（3.3%）、維持補修費3,281万5千円（21.4%）、積立金3,640万6千円（27.8%）繰出金2,198万2千円（1.9%）が増加となったものの、補助費等5億2,855万円（28.1%）、投資及び出資金3,127万8千円（15.0%）、貸付金251万円（1.6%）が減少したことによるものであります。

次に、財政構造の弾力性を示す経常収支比率については、前年度の91.2%から90.1%と1.1ポイント好転しております。

なお、一般財源不足分を補てんするために発行した臨時財政対策債を経常的一般財源収入に加えた場合の実質的な経常収支比率は、前年度の84.9%から85.3%と0.4ポイント悪化しております。

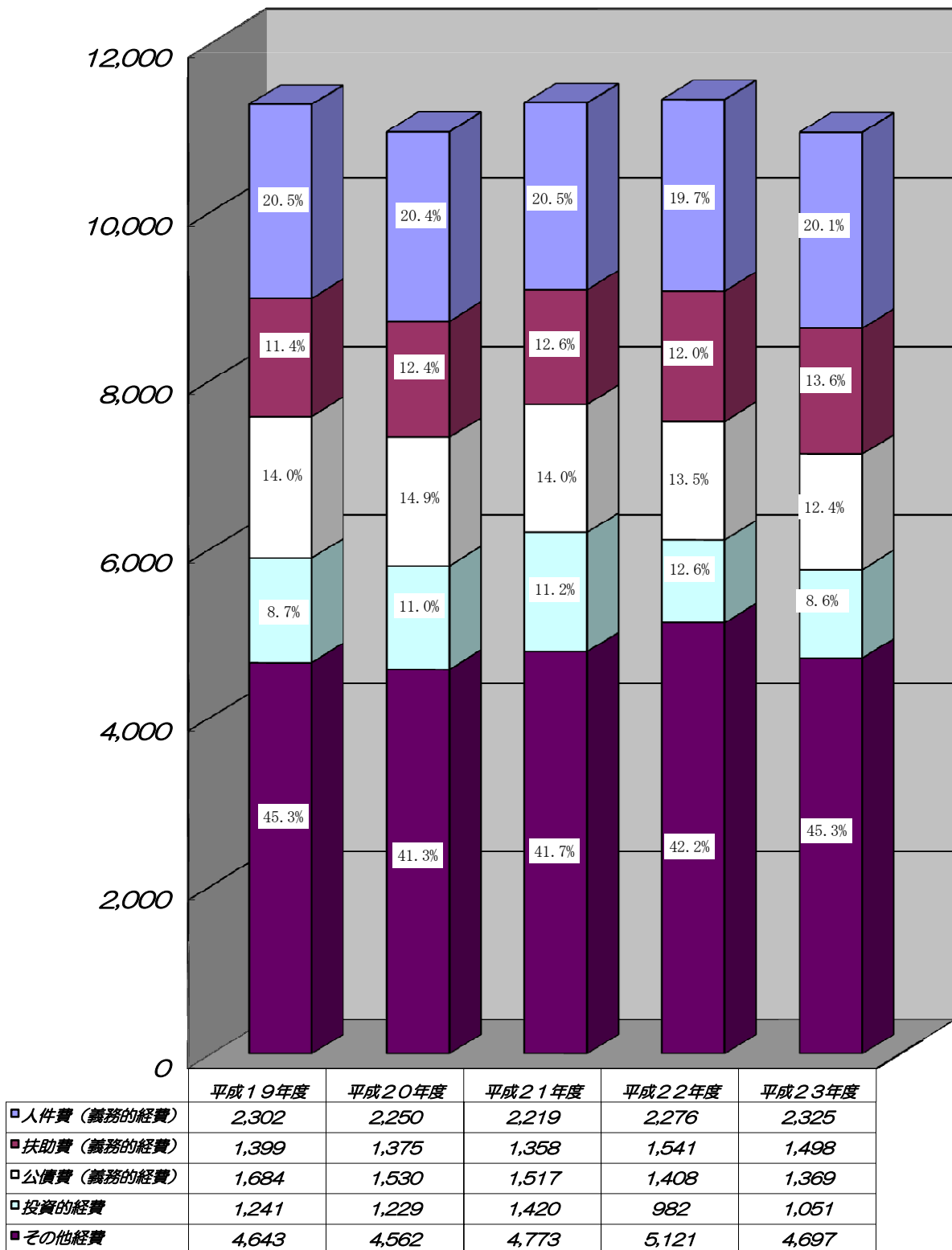
表4 歳出決算額の対前年度比較

(単位：千円・%)

区 分	平成23年度 (A)		平成22年度 (B)		比較増減 (A) - (B)	増減率	
		構成比		構成比			
義務的経費	人件費	2,325,037	21.3	2,276,185	20.1	48,852	2.1
	扶助費	1,498,144	13.7	1,540,971	13.6	△ 42,827	△ 2.8
	公債費	1,369,278	12.5	1,407,540	12.4	△ 38,262	△ 2.7
	計	5,192,459	47.5	5,224,696	46.1	△ 32,237	△ 0.6
投資的経費	普通建設事業	1,050,762	9.6	967,453	8.5	83,309	8.6
	補助	317,090	2.9	566,825	5.0	△ 249,735	△ 44.1
	単独	733,672	6.7	400,628	3.5	333,044	83.1
	災害復旧事業	0	0.0	14,237	0.1	△ 14,237	皆減
	計	1,050,762	9.6	981,690	8.6	69,072	7.0
物件費	1,470,259	13.4	1,423,441	12.6	46,818	3.3	
維持補修費	186,310	1.7	153,495	1.4	32,815	21.4	
補助費等	1,351,414	12.4	1,879,964	16.6	△ 528,550	△ 28.1	
積立金	167,362	1.5	130,956	1.2	36,406	27.8	
投資及び出資金	177,401	1.6	208,679	1.8	△ 31,278	△ 15.0	
貸付金	155,323	1.4	157,833	1.4	△ 2,510	△ 1.6	
繰出金	1,188,736	10.9	1,166,754	10.3	21,982	1.9	
合計	10,940,026	100.0	11,327,508	100.0	△ 387,482	△ 3.4	

歳出決算内訳5ヶ年の推移

(単位：百万円)



4 事業の概要

平成23年度の主な事業としては、

・ 旧緑ヶ丘小学校除却事業	47,891 千円
・ 森林環境保全整備事業	74,395 千円
・ 農業経営体機械施設整備事業	17,070 千円
・ 市内購買促進事業	19,958 千円
・ 新産業創造等事業	195,800 千円
・ 道路改修事業（上芦別あかしや4号線ほか17路線）	133,615 千円
・ 小型ロータリ除雪車購入事業	12,495 千円
・ 公営住宅整備事業（公営住宅ことぶき団地）	21,810 千円
・ 公営住宅建替事業（さつき団地）	150,707 千円
・ 河岸整備事業	31,727 千円
・ 消防用車両等整備事業	22,050 千円
・ 小学校屋内体育館耐震補強事業	49,478 千円
・ 小学校施設整備事業	12,411 千円
・ 中学校施設整備事業	44,303 千円
・ 市民会館・青年センター整備事業	19,026 千円
・ 学校プール整備事業	19,725 千円

などがあげられます。

5 地方債の状況（表5参照）

地方債の現在高は、95億846万円となり、前年度に比べて5億7,258万5千円（5.7%）の減少となりました。

表5 年度末現在高と地方債元利償還金の対前年度比較

（単位：千円・%）

区 分	平成23年度 (A)	平成22年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	増減率
年度末現在高	9,508,460	10,081,045	△ 572,585	△ 5.7
起債発行額	627,953	863,717	△ 235,764	△ 27.3
元利償還金	1,367,163	1,405,256	△ 38,093	△ 2.7
元 金	1,200,538	1,226,978	△ 26,440	△ 2.2
利 子	166,625	178,278	△ 11,653	△ 6.5
公債費比率	8.6	8.9	△ 0.3	
起債制限比率	6.8	7.2	△ 0.4	

特 別 会 計

1 奨学資金特別会計

本会計は、向学心に燃えながら経済的な理由により修学困難な学生に対し奨学資金を貸与し、等しく教育を受ける機会を与える目的のため設置したもので、当初予算において1,951万9千円を計上し、年度途中に136万7千円の追加補正を行った結果、最終予算額は2,088万6千円となりました。

予算執行の結果は、歳入決算額2,250万円、歳出決算額2,083万2千円となり、歳入歳出差引き166万8千円の剰余金が生じたので、これを全額奨学基金に積み立てました。

歳入歳出決算額の対前年度比較

(単位：円・%)

区 分	平成23年度 (A)	平成22年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	増減率
歳入決算額	22,499,568	20,732,735	1,766,833	8.5
歳出決算額	20,832,100	20,073,635	758,465	3.8
差 引 き	1,667,468	659,100	1,008,368	153.0
実 質 収 支	1,667,468	659,100	1,008,368	153.0

2 国民健康保険特別会計

本会計は、被保険者の疾病、負傷、出産及び死亡に関し、必要な保険給付等を行う医療保険を目的として設置した国民健康保険事業の収支を明確にし、健全な運営を期すもので、当初予算において26億7,197万6千円を計上し、年度途中に7,325万3千円の減額補正を行った結果、最終予算額は25億9,872万3千円となりました。

予算執行の結果は、歳入決算額27億2,258万7千円、歳出決算額25億3,143万6千円となり、歳入歳出差引き1億9,115万1千円の剰余金が生じたので、これを全額国民健康保険基金に積み立てました。

歳入歳出決算額の対前年度比較

(単位：円・%)

区 分	平成23年度 (A)	平成22年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	増減率
歳入決算額	2,722,587,792	2,737,608,171	△ 15,020,379	△ 0.5
歳出決算額	2,531,436,416	2,588,472,356	△ 57,035,940	△ 2.2
差 引 き	191,151,376	149,135,815	42,015,561	28.2
実 質 収 支	191,151,376	149,135,815	42,015,561	28.2

3 新城町簡易水道事業特別会計

本会計は、新城地区住民に清浄な飲料水を供給するため設置した簡易水道事業の収支を明確にし、健全な運営を期すもので、当初予算において193万8千円を計上し、年度途中に35万3千円の減額補正を行った結果、最終予算額158万5千円となりました。

予算執行の結果は、歳入決算額159万1千円、歳出決算額136万7千円となり、歳入歳出差引き22万4千円の剰余金が生じたので、これを全額翌年度へ繰り越しました。

歳入歳出決算額の対前年度比較

(単位：円・%)

区 分	平成23年度 (A)	平成22年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	増減率
歳入決算額	1,591,094	8,503,893	△ 6,912,799	△ 81.3
歳出決算額	1,366,946	8,493,893	△ 7,126,947	△ 83.9
差 引 き	224,148	10,000	214,148	2,141.5
実 質 収 支	224,148	10,000	214,148	2,141.5

4 西芦別地区簡易水道事業特別会計

本会計は、西芦別町をはじめとする三井地区住民に清浄な飲料水を供給するため設置した簡易水道事業の収支を明確にし、健全な運営を期すもので、当初予算において1億4,165万9千円を計上し、年度途中に75万円の増額補正を行った結果、最終予算額1億4,240万9千円となりました。

予算執行の結果は、歳入決算額1億4,241万2千円、歳出決算額1億4,097万9千円となり、歳入歳出差引143万3千円の剰余金が生じたので、これを全額翌年度へ繰り越しました。

歳入歳出決算額の対前年度比較

(単位：円・%)

区 分	平成23年度 (A)	平成22年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	増減率
歳入決算額	142,412,395	149,091,286	△ 6,678,891	△ 4.5
歳出決算額	140,979,263	147,877,465	△ 6,898,202	△ 4.7
差 引 き	1,433,132	1,213,821	219,311	18.1
実 質 収 支	1,433,132	1,213,821	219,311	18.1

5 下水道事業特別会計

本会計は、下水道の整備を図るため設置した下水道事業の収支を明確にし、健全な運営を期すもので、当初予算において7億8,513万8千円を計上し、年度途中に978万4千円の減額補正を行った結果、最終予算額は7億7,535万4千円となりました。

予算執行の結果は、歳入歳出決算額がともに7億7,349万5千円となり、収支が一致しました。

歳入歳出決算額の対前年度比較

(単位：円・%)

区 分	平成23年度 (A)	平成22年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	増減率
歳入決算額	773,495,330	790,577,568	△ 17,082,238	△ 2.2
歳出決算額	773,495,330	790,577,568	△ 17,082,238	△ 2.2
差 引 き	0	0	0	0.0
実 質 収 支	0	0	0	0.0

6 介護保険事業特別会計

本会計は、介護保険に関する給付を目的として設置した介護保険事業の収支を明確にし、健全な運営を期すもので、当初予算において15億8,672万1千円を計上し、年度途中に1,093万2千円の減額補正を行った結果、最終予算額は15億7,578万9千円となりました。

予算執行の結果は、歳入決算額15億6,028万9千円、歳出決算額15億2,816万2千円となり、歳入歳出差引き3,212万7千円の剰余金が生じたので、これを全額翌年度へ繰り越しました。

剰余金のうち、介護給付費等を上回って概算払いされた国及び道からの負担金、支払基金交付金等については、翌年度に確定後、返還するものであります。

歳入歳出決算額の対前年度比較

(単位：円・%)

区 分	平成23年度 (A)	平成22年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	増減率
歳入決算額	1,560,289,008	1,508,816,007	51,473,001	3.4
歳出決算額	1,528,161,515	1,476,235,098	51,926,417	3.5
差 引 き	32,127,493	32,580,909	△ 453,416	△ 1.4
実 質 収 支	32,127,493	32,580,909	△ 453,416	△ 1.4

7 介護サービス事業特別会計

本会計は、介護サービス等の提供を目的として設置した訪問看護事業、通所介護事業、介護老人保健施設事業、居宅介護支援事業、地域包括支援事業の各収支を明確にし、健全な運営を期すもので、当初予算において4億8,601万円を計上し、年度途中に2,433万3千円の追加補正を行った結果、最終予算額は5億1,034万3千円となりました。

予算執行の結果は、歳入決算額5億298万2千円、歳出決算額5億46万3千円となり、歳入歳出差引き251万9千円の剰余金が生じたので、これを全額翌年度へ繰り越しました。

歳入歳出決算額の対前年度比較

(単位：円・%)

区 分	平成23年度 (A)	平成22年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	増減率
歳入決算額	502,982,019	480,844,759	22,137,260	4.6
歳出決算額	500,462,615	473,840,652	26,621,963	5.6
差 引 き	2,519,404	7,004,107	△ 4,484,703	△ 64.0
実 質 収 支	2,519,404	7,004,107	△ 4,484,703	△ 64.0

8 後期高齢者医療特別会計

本会計は、高齢者の疾病、負傷又は死亡に関して必要な給付を行うことを目的として設置した後期高齢者医療事業の収支を明確にし、健全な運営を期すもので、当初予算において2億6,302万4千円を計上し、年度途中に143万2千円の追加補正を行った結果、最終予算額は2億6,445万6千円となりました。

予算執行の結果は、歳入決算額2億5,853万3千円、歳出決算額2億5,836万円となり、歳入歳出差引き17万2千円の剰余金が生じたので、これを全額翌年度へ繰り越しました。

歳入歳出決算額の対前年度比較

(単位：円・%)

区 分	平成23年度 (A)	平成22年度 (B)	比較増減 (A) - (B)	増減率
歳入決算額	258,532,663	260,126,962	△ 1,594,299	△ 0.6
歳出決算額	258,360,963	259,634,104	△ 1,273,141	△ 0.5
差 引 き	171,700	492,858	△ 321,158	△ 65.2
実 質 収 支	171,700	492,858	△ 321,158	△ 65.2